

明日を担う教育作り

ベッカーズ 絢嘉 (オランダ)

「オランダでは公的機関である学校でさえ破産の可能性がある」日本の感覚からは想像できないことを言うのは、私の長男の小学校の女性校長であるリタ先生です。彼女はまず小学校の一教師としてキャリアをスタートさせました。教師生活を送りながら学校運営に興味を持ち始めた彼女は SPO (Schoolleider Primair Onderwijs) と呼ばれる小学校校長養成機関の講座を受けました。その後、現在の小学校校長として勤務しています。当時はまだ男性校長が大多数だった時代。現在はジェンダーの壁がほとんどないオランダでも、「男性が外で働き、女性は家庭」の時代がやはり存在したようです。よって今でも校長という管理職に就くことができた女性校長は男性校長よりもやる気があり、どうすれば良い学校が作れるかを真剣に考える人が多いようです。

日本とオランダの学校の大きな違いの 1 つは、国の公的な補助があっても実際の運営方針、予算作成は各学校にすべて裁量を与えられている点です。少なくとも大学以下の学校は国からの援助プラス親からの寄付金 (年間約 48 ユーロ) で学校運営を行っています。その経済的運営の責任はすべて校長にあります。要するに学校自体が 1 つの会社のようになっています。よって学校であっても運営の方法が悪ければ破産することもあるの



Basisschool De Regenboog (学校名) の校長、リタ先生。

です。その影響か、リタ先生は女性校長と男性校長の違いの 1 つに、男性校長は、学校運営をより業務的に行い、女性校長は、やや独創的にさまざまな方法を試してみる人が多いということを挙げました。

校長という学校のリーダー的立場としてリタ先生が留意している点を見ていきたいと思

教員の仕事とプライベートの両立

オランダの小学校は、圧倒的に女性教員が多く割合を占めています。それは男性の多くが教育機関よりも収入面で魅力的な一般企業を選択する傾向にあるからと言われています。当然のことながら女性教員が多いということは、彼女達の出産や子育てをサポートできる職場を作る必要もあります。そのために、彼女はまず臨時教員のリストを作ります。このリ

ストは、地域の小学校校長同士が共有し合い、人材を紹介し合っています。もちろん、リストに掲載されている人物はすべて教員免許を取得しています。例えば正職教員の子どもが病気になり教員が休みを申請した場合、そのリストから適切な人材を速やかに選び、一日代行をさせています。しかしこの臨時教員も個人の都合で代行できない日もあるため、多数の臨時教員をリストに入れておく必要があります。どうしても臨時教員を補充することができない場合は、大学の教育学科に問い合わせる適切な人物（主に卒業間近の生徒）を補充しています。また、教員の出産後の育児休暇は、性別に関係なく申請されれば与えなければなりません。通常は週 5 日で働いている男性教員が妻の出産後約 1 年間、週 4 日で働いたという事例もあります。

各教員との人間関係、またチームワーク

校長と各教員がコミュニケーションを取りやすい環境作りに努めているようです。例えば定期的に皆で経験、意見を交換し合う場を設けたり、時には各教室へ授業見学に行きます。その際の教員の授業の進め方を評価し、各教員の通知表を作っています。そしてこの学校には日本でいう職員室のような堅苦しいものはなく、休憩場所の大きなテーブルで教員同士が、担当する学年に関係なくオープンにコミュニケーションを取り合っています。また教員全員が同じ教育目標に向かって生徒を指導していくことを重要視し、生徒に勉強内容を覚えさせるのではなく、体験させ、考えさせるような授業を組み立てるように協力し合っているのです。

保護者との関わり

先述したとおり、保護者からの寄付金も学校運営において欠かせないものとなっていることから、保護者との関わりを、とても重要視しています。その方法として定期的に面談をしたり、子どもの送迎の際に多くの保護者とコミュニケーションを取ったりしています。私自身も彼女と廊下でよく話しますし、担任教師からの学級通信とは別に、学校行事や学校の改善点など実務的なことについて、時折、全保護者宛のメールを受け取ります。またオランダは小学校であっても落第制度、飛び級制度が普通化しています。しかし、日本のようにネガティブなイメージは全くなく、本人の学習能力に合うスピードで、効率よく学ばせるための手段として行われています。そのためオランダの教育はハンドメイド式と言われます。子ども達は一人一人違いがあっても当然なので、個人的に私はこの制度はとても魅力的だと思います。そのため、生徒の学校での様子、学習能力を保護者の理解を得ながら共に見ていき、子どもに学ぶ楽しさを教え、やる気を持たせることをとても重要視しています。

このようにしてリタ先生は学校の中でリーダーシップを取りながら明日を担う子どもの教育に関わることをとても楽しみ、また誇りに思っているそうです。